

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 11 月 4 日 (2021.11.4)

【公開番号】特開 2020-126270 (P2020-126270A)

【公開日】令和 2 年 8 月 20 日 (2020.8.20)

【年通号数】公開・登録公報 2020-033

【出願番号】特願 2020-81243 (P2020-81243)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/02 (2006.01)

H 0 1 L 27/32 (2006.01)

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/02

H 0 1 L 27/32

G 0 9 F 9/30 3 6 5

G 0 9 F 9/30 3 4 9 E

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 27 日 (2021.9.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

直線偏光板と、1 / 2 波長層と、活性エネルギー線硬化型接着剤を硬化させてなる第 1 接着層と、1 / 4 波長層とをこの順に備え、

前記 1 / 2 波長層の進相軸と、前記直線偏光板の透過軸とのなす角度が 10 ° 以上 20 ° 以下であり、

前記第 1 接着層の波長 589 nm での屈折率と、前記 1 / 2 波長層の波長 589 nm での進相軸方向の屈折率との差の絶対値が 0.05 未満であり、

前記第 1 接着層は、波長 589 nm での屈折率が 1.51 以上 1.54 以下であり（波長 532 nm での屈折率が 1.55 以上である接着層を除く）、

前記 1 / 4 波長層は、波長 589 nm での進相軸方向の屈折率と遅相軸方向の屈折率の平均値である面内平均屈折率が 1.58 未満である、偏光板複合体。

【請求項 2】

前記第 1 接着層の波長 589 nm での屈折率と、前記 1 / 4 波長層の波長 589 nm での進相軸方向の屈折率と遅相軸方向の屈折率の平均値である面内平均屈折率との差の絶対値が 0.05 未満である、請求項 1 に記載の偏光板複合体。

【請求項 3】

円偏光板である、請求項 1 または 2 に記載の偏光板複合体。

【請求項 4】

前記 1 / 2 波長層は、液晶層である位相差発現層を含む、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の偏光板複合体。

## 【請求項 5】

前記 1 / 4 波長層は、液晶層である位相差発現層を含む、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の偏光板複合体。

## 【請求項 6】

前記第 1 接着層は、厚みが  $5 \mu\text{m}$  以下である、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の偏光板複合体。

## 【請求項 7】

画像表示パネルと、前記画像表示パネルの視認側に配置された請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の偏光板複合体とを含む、画像表示装置。

## 【請求項 8】

前記偏光板複合体は、前記直線偏光板が視認側に位置する向きで配置されている、請求項 7 に記載の画像表示装置。

## 【請求項 9】

有機エレクトロルミネッセンス表示装置である、請求項 7 又は 8 に記載の画像表示装置。